

# 指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名: 環境生活部

## 1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県交通安全研修センター (津市垂水2566番地)
指定管理者の名称等	一般財団法人三重県交通安全協会 会長 余野部克治 (津市栄町1丁目954番地)
指定の期間	平成25年4月1日～平成28年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	三重県交通安全研修センターの運営業務 三重県交通安全研修センターの維持管理業務 三重県交通安全研修センターの管理上必要な業務 その他の業務

## 2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H25	A	-	施設の管理においては、研修水準を維持するため、毎日の始業前点検等の徹底を図り各施設の快適な利用と安定した運営の保持に努めるとともに、簡易な保守等については職員自身が実施するなど修繕料等のコスト削減を図ることができた。 また、利用者サービス向上のためにホームページを改良し、SNS等様々な媒体を活用した広報啓発を実施している。 一方、交通安全教育の実施については、一定の評価はできるものの、センターの機能を十分に発揮されているとはいえない。
H26	A	-	
H27	A	-	

## 3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H25	B		団体利用については、幼児から高齢者までの幅広い層に利用されており、それぞれの特性に応じた参加・体験・実践型の交通安全教育を実施している。遠隔地である等の理由から来所が容易ではない団体等に対しては、依頼に応じて出前研修を実施している。 平成25、26年度は屋外、屋内施設の改修に伴い来場者数に影響があったが、その後、PRに努め、来場者は増加している点は評価できる。
H26	A	-	
H27	B		

## 4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	119,100,000	事業費	24,941,954
利用料金収入	0	管理費	78,592,294
その他の収入 (過年度法人税等引当戻入収入、預金利息等)	12,409	その他の支出	0
合計 (a)	119,112,409	合計 (b)	103,534,248
収支差額 (a)-(b)	15,578,161		

参考

利用料金減免額	0
---------	---

## 5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績				
			成果目標項目	H27目標値	H25実績値	H26実績値	H27実績値
H25	B		(1)成果目標				
			指導者養成・資質向上講座受講者数(人)	1,000	1,611	1,787	1,484
			団体研修受講者数(人)	6,000	4,691	5,556	5,502
			一般利用者数(人)	43,000	40,000	43,640	62,814
			研修により行動変容・意識変容があったと回答した受講者の割合(%)	100	98.70	97.50	97.50
H26	B		(2)指定管理者独自の数値目標				
			施設利用者数(人)	50,000	46,302	50,983	69,800
			交通弱者団体等利用者数(人)	2,000	2,068	2,039	1,846
			出前研修回数(回)	30	18	20	16
			企業・団体等への訪問活動(回)	240	240	248	246
			ホームページアクセス回数(回)	15,000	21,889	24,680	10,289
H27	A	-	ホームページ更新回数(回)	12	15	26	16
			広報紙発行回数(回)	4	4	4	4
			施設を利用した県民へのPR事業の実施回数(回)	15	18	14	14
			教材・教育プログラムの作成	3	3	3	19
			利用者満足度(%)	100	94.80	96.80	97.70
全期間におけるコメント							
成果目標については、指導者養成・資質向上講座受講者数は、毎年度目標を達成している。また、指定管理者が独自に設定している目標についても、毎年度、10項目中5～7項目の目標を達成している。							

## 6 総合評価

<p>・成果目標の指導者養成・資質向上講座受講者数については、毎年度、目標を達成している。団体研修受講者数と一般利用者数は、平成25～26年度の施設改修工事による利用制限があったことから、不達成についてはやむを得ないとする。また、指定管理者が独自に設定した項目10項目についても同様の影響があったが、毎年5項目以上達成した。</p> <p>・歩行環境シミュレータや自転車シミュレータなど、ニーズに応じた新しい機器を導入し、改正道路交通法に対応した取組、歩行者・自転車利用者など交通弱者の交通安全対策及び地域での交通安全指導者の育成に重点を置いた研修を実施しているが、高齢者対策については、アプローチが弱い傾向がある。</p> <p>・独自の取組として、「交通安全学習フェスタ」、「交通安全夜間特別研修(交通安全ナイトスクール)」等、創意工夫を凝らした事業の実施に努めている。</p> <p>・研修受講者へのアンケート調査で高い満足度を得ている。また同時に、利用者のニーズや研修効果の把握に努めるとともに、外部の有識者等で構成する「事業内容等評価検討委員会」を開催し、研修センターの運営の改善に役立てている。</p> <p>・毎日の始業前点検等の徹底を図り、各施設・機器の快適な利用と安定した運営の保持に努めるとともに、簡易な保守等については職員自身が実施するなど修繕料等のコスト削減に取り組んでいる。</p> <p>こうしたことから、全期間を通して、利用者にとって使いやすい施設としての運営を行い、コスト縮減と利用者へのサービスの向上が図られたと評価できる。今後は、新しい施設の強みを生かした新しいカリキュラムにより、高齢者対策や交通弱者対策に重点的に取り組むとともに、県内の交通安全教育の核として、市町が推進すべき交通安全教育を支援していく必要がある。</p>
---

「2 管理業務の実施状況」の自己評価	「A」	業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
	「B」	業務計画を順調に実施している。
「3 施設の利用状況」	「C」	業務計画を十分には実施できていない。
	「D」	業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
「5 成果目標及びその実績」の自己評価	「A」	当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
	「B」	当初の目標を達成している。
県の評価	「C」	当初の目標を十分には達成できていない。
	「D」	当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
	「+」(プラス)	指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
	「-」(マイナス)	指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
	「 」(空白)	指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。